

臨床実践能力の修得に向けた統合実習Bの達成度

小野 晴子*・川崎 泰子・掛屋 純子・磯本 暁子・塩見 和子・柘野 浩子

看護学科

(2012年11月12日受理)

本研究の目的は、看護管理を基盤とした統合実習Bの学生の達成度を明確にすることである。分析した結果以下のことがわかった。達成度は、5段階リカーン法を用いて5項目の平均得点で比較を行った。各項目間の比較は、等間隔尺度を用いて理解度をみた。

1. 「実習目標の達成度」は96.3%と高く、「今後の役立ち度」も93%であった。
2. 実習目標の項目別理解度では「病棟の病床管理」が3.9点で最も高く、「教育との連携・倫理観」が3.0点で最も低かった。
3. 実習目標の内容別理解度では「医療チーム」、「安全管理」、「人材の確保と育成」の内容が98.3%の同率で全項目中最も高く、「看護の機能評価」が51.2%で最も低かった。また、「学校と臨床との調整・連携」も66.7%と低かった。
4. 実習目標の達成度と実習内容の理解度に強い相関があることがわかった。(r=0.70~0.50, P<0.000)
5. 学生の学びや感想では、「管理者の役割・機能」について学べたと述べ、「教育と臨床の連携不足」を感じていた。

以上のことから、カリキュラム改正初年度の看護管理実習「統合実習B」における学生の自己評価による達成度は高く、臨床実践能力の修得、看護をマネジメントできる基礎的能力の育成に繋がっていることがわかった。また、教育上の課題も明確となったので検討を加え改善していきたい。

(キーワード) 達成度・理解度、統合実習B、シャドーイング、臨床実践能力

はじめに

2009年度に新カリキュラムが改正¹⁾され、統合分野が設置された。統合分野には、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」を教育内容として新たに位置づけられた²⁾。臨床実習では「看護の統合と実践」において、複数の患者を受け持ち、臨床実践の中で必要な基礎的知識と技術を統合的に体験することと、看護管理について臨床での学びを深めることが求められた。これらは、卒業後臨床現場にスムーズに適応できるようにという意図をもって臨床実践能力の育成として位置づけられた³⁾。

A短期大学では、これらの「看護の統合と実践」を「統合実習A」と「統合実習B」の科目立てを行った。「統合実習A」では、複数の患者を受け持ちケアの優先度の判断ができることを目的とした。「統合実習B」では、看護チームのメンバーシップ及びリーダーシップ能力を養い、他職種との連携や看護管理におけるマネジメントの必要性が理解でき、看護の専門職として倫理観を養うことをねらいとした。

また、「看護の統合と実践」に関する先行研究は、カリキュラム改正後、初年度の臨床実習のためのカリキュラムデザインに関する報告は多々あるが⁴⁾⁵⁾、授業実践後の評価に関する研究は見られなかった。そこで、今回は「統合実習B」の看護管理のマネジメントの到達度と学びについて調査を行った。その結果、カリキュラム改正後の初年度での問題や今後の課題が明らかになり、次年度の実習への示唆を得たので報告する。

I. 研究目的

臨床実践能力の育成に向けた統合実習Bの評価を行い、学生の達成度と学生の意見・感想を分析し、教育効果ならびに今後の教育上の課題を明らかにする。

II. 研究概要

1. 研究の背景と意義

近年の看護基礎教育では多くの場合、学生が一人の患者

*連絡先：小野晴子 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

を受け持ち、看護ケアを計画・実践・評価するという実習方法を展開してきた。そのために卒業後に臨床現場で複数の患者を対象にし、ケアの優先度を考えながら時間内に業務を実施するということは極めて困難であり、このことが卒業後の新卒看護師の離職にもつながっていると指摘されてきた⁶⁾。

一方、医療現場では医療事故防止や患者・家族の意識の変化など看護師に求められる知識や技術、対人関係能力などがますます高まり、卒業後の看護師の能力と臨床で求められる能力のギャップが大きく、安全で適切な看護を提供することが懸念された⁷⁾。このような現状を踏まえ、今回の指定規則によるカリキュラム改正に至った。

2. 統合実習Bの目的・目標・実習内容

看護チームのメンバーシップ及びリーダーシップ能力を養い、他職種との連携や看護管理におけるマネジメン

トの必要性を理解し、看護管理者の倫理的感性を知ることがを目的とした（表1）。

1) 統合実習Bの実習目標・方法

- ①病棟における看護マネジメントの実際を見聞し、リーダーの責任と役割が理解できる。
- ②チーム医療および他職種との連携や協働の実際を理解できる。
- ③災害看護について、緊急時の対応や予防対策の実際を知り重要性を理解できる。
- ④病棟管理者の役割と責任を理解できる。（病棟の理念と目標、看護方式、看護手順・基準、病床管理、人事管理、看護教育等）
- ⑤看護専門職として倫理的感受性を持ち、自己の目標を持つことができる。

2) 実習の方法

- ①成人看護学実習Bで実施した施設で実習を行なう。

表1 総合実習Bの目標と実習内容

科目	授業科目の目標	実習内容	備考
統合実習B	1. 看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解することができる	1). チームリーダーの役割と業務の実際 ①医師への報告・連絡調整 ②チームおよびスタッフへの連絡調整 ③病院内外の部門との連絡調整 ④医療チームの中で他職種と協力しながら看護の役割について理解する 2). チームメンバー間の協力・行動調整 ①病院組織における看護管理 ②看護組織としての機能 ③看護理念 ④看護方式 ⑤病院看護の機能評価	看護部長・チームリーダーからの指導が主
	2. 病棟管理・看護管理の実際について理解できる	3). 病棟管理者の役割と業務 ①病床管理 ②スタッフ・看護学生の教育指導 ③安全管理・物品管理 ④災害管理の実際 ⑤他部門との連絡調整 ⑥看護組織の中での報告・連絡・調整の実際 ⑦職員の配置（チーム内、病棟内外への配置も含） ⑧勤務時間管理の実際（年間、月間、週間、日間のスケジュール） ⑨職員の健康管理（健康診断、予防接種、感染対策） ⑩実習生の受け入れと、学校側との調整と連携	
	3. 看護部長の倫理的指針を理解できる	①看護部長としての倫理的指針 ②看護専門職としての倫理的感受性の目標を持つ	

表2 週間実習計画

科目	曜日	実習項目	担当教員
統合実習B	月	オリエンテーション, 看護管理実習	小野晴子
	火	看護管理実習	
	水	看護管理実習	
	木	看護管理実習, 反省会	
	金	学内カンファレンス	

- ②看護単位における管理者の管理体制の実際を見聞し、シャドウイングを実践する。

3) カンファレンス

- ①ショートカンファレンス
②反省会

4) 記録物

- ①統合実習Bの記録様式 (A 4, 1枚)

5) 実習日程

表2. 週間実習計画

6) 実習評価

全出席を原則とし実習態度、内容、記録物で総合的に評価する

Ⅲ. 研究方法

1. 調査対象：A短期大学3年生62名に配布，回答者数57名（回収率91.9%）。
2. 調査方法：自記式質問紙調査
3. 調査期間：2012年2月24日～3月3日
4. 調査内容：A短期大学の統合実習Bの目的・目標を達成する具体的な実習項目・内容として，①病院管理の役割業務，②看護部長の役割業務，③病棟の組織管理，④病棟の病床管理，⑤病棟の人事管理，⑥教育と臨床の連携・倫理観について6項目 30の実習内容に関する質問を設定し，学生の理解度を求めた。合わせて統合実習B実習に関する感想および学びを自由記述で求め，内容分析を行った。なお，具体的な実習内容は，テキスト・シラバス・国家試験出題基準を参考に設定した。
5. 分析方法：リカート法尺度を用い，「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」の5段階とし「非常にあてはまる」が5点，「全くあてはまらない」1点として得点の平均値を用いた。各項目間の比較は，「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」「大体あてはまる」を「あてはまる」とし，「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を「あてはまらない」として理解度をみた。

分析は，統計ソフトSPSS 17.0Jfor Windowsで相関係数を算出した。自由記述は内容分析によるカテゴリー化を行った。カテゴリー化にあたっては共同研究者間

で協議した。

6. 倫理的配慮：対象者に研究の主旨を説明し，研究以外には使用しないこと，匿名性の保持，参加は自由意志であり実習評価には影響しないこと，公表する旨を口頭で説明し了解を得た。

Ⅳ. 結果

実習目標に対する到達度については，リカート法の5段階尺度で求めた。学生の意見・感想に関しては，自由記述の内容分析を行った。自由記述を意味内容の類似性に従ってコード（「」と表記）化し，サブカテゴリー（『』と表記）とカテゴリー（【】と表記）に分類した。全体で57名の学生から66のコードを抽出した。

1. 統合実習Bの自己評価

統合実習B全体に対する自己評価を，「実習目標の達成度」と「実習への取り組み」，「今後の活用度」の3項目でみた。

実習目標の達成度は96.3%で，実習への取り組みは89.5%，今後の役立ち度は93.0%であった（図1）。

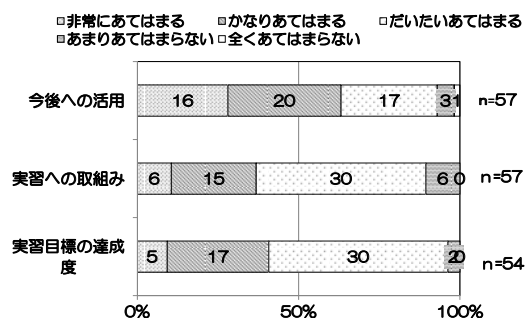


図1 総合実習の達成度

2) 実習目標の項目別理解度

統合実習Bの実習目標の達成度をみた。各項目を5項目の平均得点を出し比較を行った。理解度が高かったのは「病棟の病床管理」で3.9点であった。次いで，「病棟の組織管理」3.8点，「病院管理の役割業務」，「病棟の人事管理」，「看護部長の役割業務」がともに3.7点であった。次いで「教育と臨床の連携・倫理観」は3.0点であった（図2）。

3) 実習目標の内容別理解度

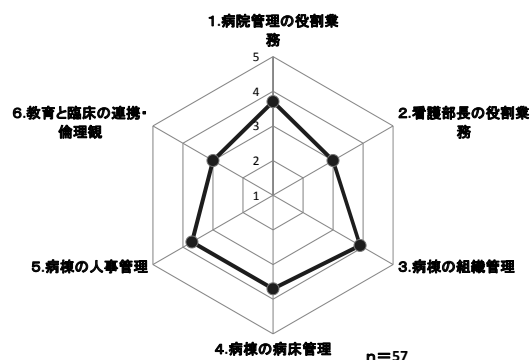


図2 実習目標項目別理解度

病棟の病床管理に関する実習内容を、「安全管理」、「病床管理」、「他職種との協働」、「看護方式」、「災害管理」の5項目挙げ、その理解度をみた。最も理解度が高かったのは、「安全管理」で98.3%、次いで「病床管理」98.2%、「他職種との協働」96.5%、「看護方式」94.8%の4項目の実習内容が90%を超えていた。「災害管理」は84.1%であった（図3）。

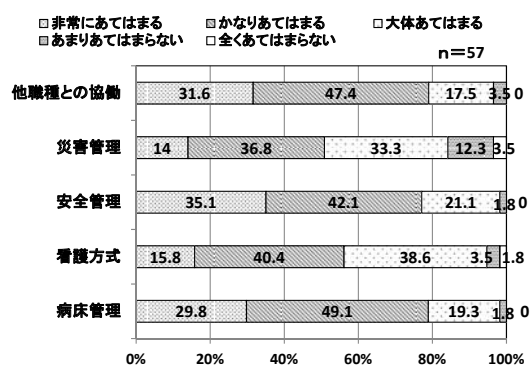


図3 病棟の病床管理の理解度

病院管理の役割業務に関する実習内容を「病院・看護部の理念と遂行」「病院経営への参画」「他部門との連絡調整」「人材の確保と育成」「看護関係機関との連絡調整」の5項目を挙げ、その理解度をみた。

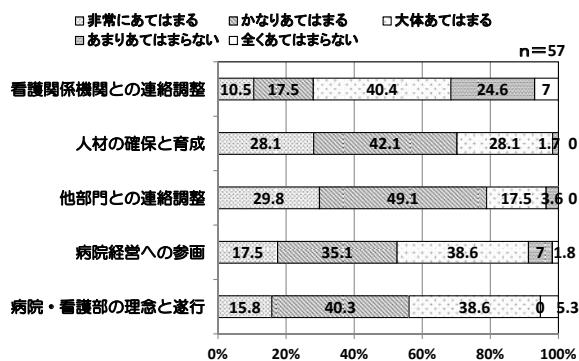


図4 病院管理の役割と業務の理解度

最も理解度が高かったのは、「人材の確保と育成」で98.3%、次いで「院内他部門との連絡調整」96.4%、「病院・看護部の理念と遂行」94.7%、「病院経営への参画」91.2%で4項目が90%以上であった。「看護関係機関との連絡調整」は68.4%で最も低かった（図4）。

看護部長の役割業務を「看護の機能評価」、「他病院との連絡調整」、「人材確保とキャリアアップ」、「看護管理」、「リーダーシップ」の5項目でみた。

最も理解度の高かったのは、「リーダーシップ」で、96.7%が理解できたと答えた。次いで、「看護管理」で94.7%、次いで「人材確保とキャリアアップ」93%、「他病院との連絡調整」が80.7%、最も低かったのは、「看護の機能評価」51.2%であった（図5）。

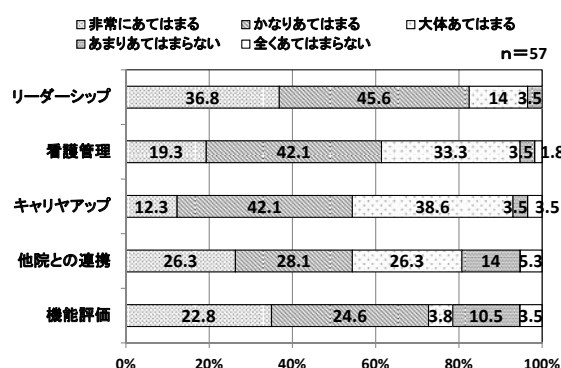


図5 看護部長の役割業務の理解度

病棟の組織管理を「メンバーとの関係構築」、「チームとの連絡調整」、「医療チーム」、「病棟の理念の遂行」、「各種委員会の機能」の5項目でその理解度をみた。

最も理解度が高かったのは、「医療チーム」で98.3%、次いで「メンバーとの関係構築」96.8%、「チームとの連絡調整」と「病棟の理念の遂行」が94.7%で同率であった。次いで「各種委員会の機能」が91.3%で5項とも90%を超えた（図6）。

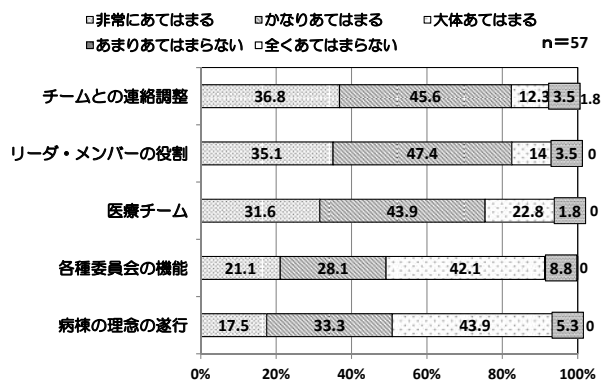


図6 病棟の組織管理の理解度

病棟の人事管理に関する実習内容を「勤務表管理」、

臨床実践能力の修得に向けた統合実習Bの達成度

「配置・移動」,「健康管理」,「教育・指導」,「キャリア支援」の5項目でみた。

「勤務表管理」が96.4%と最も理解度が高く、次いで「配置・ローテーション」が94.7%,「健康管理」93%,「教育・指導」91.3%,「キャリア支援」が82.4%と続いていた(図7)。

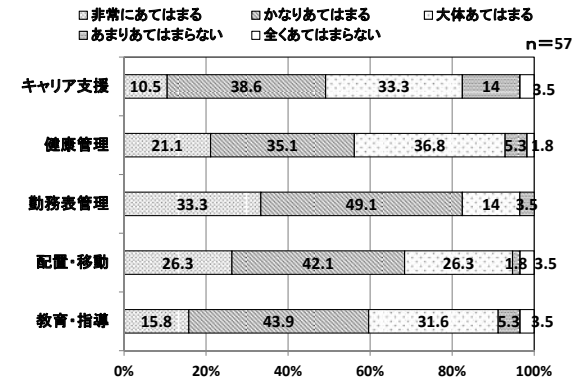


図7 病棟の人事管理の理解度

教育と臨床の連携・倫理観に関する実習内容を「倫理的感性」,「倫理的指針」,「学生の教育指導」,「実習生の受け入れ」,「教育と臨床との連携」の5項目でみた。

理解度が高かったのは、「倫理的感性」で79%, 次いで「倫理的指針」が75.4%, 続いて「学生の教育指導」70.2%, 「実習生の受け入れ」68.5%であった。最も低かったのは,

「教育と臨床との連携」で66.7%であった(図8)。

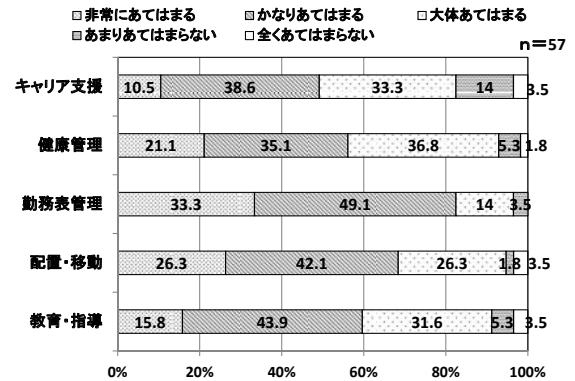


図8 教育と臨床の連携・倫理観の理解度

2. 実習内容の理解度と達成度の相関関係

実習内容の理解度と達成度をPearson相関係数でみた。自己評価得点と実習内容の6項目すべてに1%水準で有意な相関が認められた。(r=0.700~0.500, P<0.000)

最も高い相関があった実習内容は、「病院管理の役割業務」の理解度と達成度であった(r=0.700, p<0.000)。次いで「病棟の組織管理」(r=0.685, P<0.000),「看護部長の役割と業務」(r=0.614, P<0.000),「病棟の人事管理」(r=0.606, P<0.000),「教育と臨床の連携・倫理観」(r=0.514, P<0.000), 最後が,「病棟の病

表3 実習内容の理解度と達成度の相関関係

		相関係数					
自己評価得点	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	自己評価得点	病院管理の役 割業務得点	看護部長の役 割業務得点	病棟の組織管 理得点	病棟の病床管 理得点	教育と臨床の 連携・倫理観 得点
		1					
病院管理の役割業務得点	.700** .000 54		1				
看護部長の役割業務得点	.614** .000 54		.762**	1			
病棟の組織管理得点	.685** .000 54		.715**	.730**	1		
病棟の病床管理得点	.500** .000 54		.629**	.578**	.682**	1	
病棟の人事管理得点	.606** .000 54		.707**	.781**	.739**	.691**	1
教育と臨床の連携・倫理観得点	.514** .000 54		.525**	.612**	.419**	.459**	.607**
							57

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

床管理」となっていた ($r=0.500$, $P<0.000$)。

相関が強かった実習内容を見ると、「看護部長の役割業務」と「病棟の人事管理」の相関係数であった ($r=0.781$, $P<0.000$)。逆に、「病棟の組織管理」と「教育と臨床の連携・倫理観」の相関が低かった ($r=0.419$, $P<0.001$) (表3)。

3. 統合実習Bの学び・感想

統合実習Bでは、看護管理に関する学び・感想をカテゴリ分析すると、66コードを抽出した。そこから16のサブカテゴリが抽出でき、7つのカテゴリに分類できた (表4)。

表4 統合実習Bに関する学生の感想と学び

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)
管理者の役割・機能の理解と学び	管理目標の重要性がわかった (6)
	管理職について考える機会がなかった (3)
	管理職やリーダーの役割が理解できた (15)
	師長の仕事の理解ができた (2)
多角的な視点	違う視点での見方ができた (8)
チーム医療	チーム医療の視点での理解ができた (2)
管理者の倫理観	看護倫理は看護の基盤 (5)
経験する楽しさ	楽しく実習できた (2)
	貴重な経験ができた (2)
他職種との連携	看護師の動きが見えた (4)
	他職種との連携を知る機会となった (4)
	他部門の理解 (1)
教育側の説明不足	教育と臨床の連携不足 (4)
	看護部長の業務を学びたかった (4)
	実習内容の格差 (2)
	実習への取り組み (1)

カテゴリをコード数の多い順にみると【管理者の役割・機能の理解と学び】が30コードで、サブカテゴリは『看護目標の重要性がわかった』『管理職について考える機会になった』『リーダーの役割が理解できた』『師長の仕事が理解できた』の4つに分類できた。主なコードは「管理者が目標をもっていると働きやすいと感じた」「管理者は責任が大きく幅広い視点が必要だと思った」「管理職やリーダーの役割が理解できた」と述べていた。

【他職種との連携】が9コードで、サブカテゴリは『看護師業務が理解できた』『他職種との連携を知る機会となった』『他部門との連携が理解できた』の3つに分類できた。主なコードは「看護師業務の実際を知ることができた」「他病棟に行って生 (実際) の連携を見た」「外来などとの病院全体の役割が見えた」と述べていた。

【多角的な視点】は8コードで、サブカテゴリは『違う視点での見方ができた』の1つを分類、コードの主な内容は「今までは患者との関係だったが、組織として働くという視点がもてた」「看護以外の視点から考えられた」「多角なものを見方を学べた」などと述べていた。

【教育と臨床との連携不足】は7コードで、サブカテ

リーは『教育と臨床との連携不足』『実習内容の格差』『実習への取り組み』の3つに分類できた。主なコードは「学校と病院の調整が全くできていない」「看護部長の役割などをもっと知りたかった」「管理についてつかみづらい点があった」と述べていた。

【管理者の倫理観】は5コードで、サブカテゴリは『看護倫理は看護の基盤』の1つに分類できた。主なコードは「看護倫理にのっとって実習を受け入れていたことを知った」「管理者の倫理観は必要不可欠なもの」「患者やスタッフとの関係調整は倫理観に基づいて行っていることを知った」と述べていた。

次に、【経験する楽しさ】が4コードで、サブカテゴリは『楽しく実習ができた』『貴重な経験だった』の2つに分類できた。主なコードは「すごく楽しく興味深かった」「今までに経験できないようなことができた」と述べていた。

【チーム医療】は2コードで、サブカテゴリは『チームとしての視点が理解できた』であった。主なコードは「チーム医療が患者家族を安心・安楽に導くことが分かった」「今までは患者との関係だったがチームとしての視点がもてた」と述べていた (表4)。

V. 考 察

1. 実習目標に対する自己の到達度

「統合実習」は改正カリキュラムに新しく追加された内容や科目と臨地実習を通して、チーム医療の時代にある看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解することをねらいとした。先行研究⁹⁾では、ケアの優先度の判断が行えることと、自分なりのタイムマネジメントができる基礎的な能力を養うために、複数の患者受け持ち実習を行い、臨床実践能力の修得、基礎的能力の育成に繋がっていることがわかった。「統合実習B」では、卒業後の新卒看護師の能力と臨床で求められる能力のギャップを少しでも埋めるために、広い視野に基づいた看護管理の実践の理解を学ぶことをねらいとした。

1) 実習目標の達成度

実習目標の達成度、実習への取り組み、今後の役立ち度をみると、ほぼ全員が9割を超えたことから達成できたと考える。また、卒業後の臨床実践に活かすことができると考える。看護管理実習が指導者に影のように寄り沿いながら、学生は主体的に学ぶことを通して臨床実践能力の修得に繋がっていると考え。看護管理実習がシャドウイング実習であることから看護部長の考え方や看護実践をそばで見、なぜ、どのように判断して行動をとったのかを考える機会となったと考える。

2) 実習目標の項目別理解度

実習目標の項目別理解度で高かったのは「病棟の病床管

理」「病棟の組織管理」「病棟の人事管理」で、平均値が3.8点であった。これは看護管理の基本は「人・物・金」で、講義を通して学び、実習を通して比較的目視化することから身近に捉えることができる内容であったためと考える。山田ら¹⁰⁾は「“見える化”をすることで学生が現場のリアリティを感じられるようにしておく」ことを進めている。逆に、「看護部長の役割と業務」の理解度が低かったことは、看護部長との接点が少なく、中には看護部長からの指導を受けられなかった学生もいたことから、理解が低くなったと考える。また、「教育との連携・倫理観」が3点で6項目中最も低かったことから、教育側と看護部長・臨床指導者との連携がもっと取れていたなら、看護のトップマネージャーとしての病院組織における看護管理等を学ぶことができ、臨床実践能力の育成に繋げることができたのではないかと考える。

3) 実習目標の内容別理解度

病棟の組織管理の理解度では、「院内他部門との連絡調整」次いで「人材の確保と育成」に関しては、高い理解度であったが、あとは中等度の理解にとどまった。特に、「看護関係機関との連絡調整」が低く、臨床講義等を受けても、実際にその現場に遭遇することが少ない項目であったために理解が得にくかったと考える。看護関係機関とは、厚生労働省や県の環境保健課または、看護協会県支部等であり、関係機関としての連絡調整の頻度はそう多いわけではなく、学生が理解を得るまでには至らなかったものと考ええる。しかし、耳学問であったとしても一度その流れや考え方を見聞しておく、臨床実践の場で想起しやすくイメージにつながりやすいと考える。

看護部長の役割と業務では、「リーダーの役割」が全項目中最も高かったことから、病院の組織の特徴を理解し病院全体の中での看護部の位置づけと役割を理解することができたのではないかと考える。看護部は病院組織の中で最も大きな組織であり、そのリーダーとして果たす役割は大きい。そのトップマネージャーとして、「看護管理」「人材確保とキャリアアップ」「他病院との連絡調整」「看護の機能評価」のいずれも中等度以上の理解を得ていた。

病棟管理者が任された病棟の組織化で、理解度が高かったのは、「メンバーとの関係構築」、「チームとの連絡調整」、「医療チーム」が高い理解度であった。この3項目は、人と人の関係をつないでいくことが求められていると考える。メンバーとの関係・チームとの連絡調整・医療チームとの幅広い関係の構築が重要である。いずれも協力・協調性を要として成立する病棟の組織化で、実践の場で欠くことのできない重要な役割の理解ができたと考ええる。

病棟管理者のメインの役割・機能では、理解度が高かったのは、「安全管理」、「病床管理」、「他職種との協働」

が高い理解度を示したことは、これらの項目は日常的に繰り返され実践していく内容であることから親近感をもって理解することができた項目であったと考える。特に「安全管理」や「災害管理」は統合と実践B・Cの科目として授業科目に挙げている。それぞれ講義時間数も1単位の科目である。「看護方式」の理解が高くなかったのは意外であった。看護管理の授業でも時間をとって教授し、国家試験の出題基準にも必修問題としている内容である。チームナーシング方式を殆どの施設が採用して実践されていることが一般化され、あえて強調しなかったとも考えられる。しかし、理解ができているか不確定な場合は、カンファレンスなどで、実習病棟の看護方式はどのような体制なのかなど理解の確認をする必要があったと考える。

病棟管理者の重要な役割である人事管理では、「勤務表管理」が高い理解度であった。あとの項目は中等度にとどまった。「配置・移動」「健康管理」「教育・指導」「キャリア支援」は、看護師に対する人事管理・教育支援の内容である。これらは、学生にとって、将来最も身近な内容である。興味や関心をもって理解ができるように、実習前のオリエンテーションや実習の重点内容であることを伝えるなど、病棟管理者との細やかな連携が必要であると考ええる。

病棟管理者の基盤となる指針としての教育との連携・倫理観では「学生の教育指導」「実習生の受け入れ」「倫理的感性」「倫理的指針」の理解は中等度であった。これらの内容は、学生には目視化しにくく、看護部長としての原理原則を語られても学生のような未経験者にとっては理解しにくかったのではないかと考える。また、教育側としても、看護部長に対して自己の看護管理観や指導観・倫理観を学生に教える意義や意図を十分に伝えられていなかったと考える。そのことが「教育との調整・連絡」の理解の低さにも繋がったと言える。統合実習が初年度であったことを踏まえ、より綿密な連携が必要であったと考える。

2. 実習内容の理解度と達成度の相関関係

実習内容の理解度と達成度の相関をみると、自己評価得点と実習内容の6項目すべてに有意な高い相関が認められた。これは実習内容を理解できた学生は達成度が高いと言える。中でも、最も高い相関があった実習内容は、「病院管理の役割業務の役割と業務」で、次いで、「病棟管理者の組織管理」「看護部長の役割と業務」であった。本調査で、学生の理解度が高かった項目や内容をみると、病棟管理者よりも看護部長の役割や業務であった。実習目標の内容別理解度をみても病院管理の役割業務や看護部長の役割の理解度が高かった。学生の理解度が高ければ、達成度も高いという相関関係となったといえる。

逆に、「病棟管理者の組織管理」と「病棟管理者の教育・倫理観」の理解度が低いと達成度との相関も低いと考えられる。

3. 統合実習Bの学び・感想

看護管理に関する学び・感想をコード数の多い順にみると【管理者の役割・機能の理解と学び】が最も多かった。その理解の内容をみると、『看護目標の重要性がわかった』『リーダーの役割が理解できた』『師長の仕事が理解できた』などと集約され、管理者の組織目標やリーダーシップの取り方など具体的な学びに繋がり、さらに、その内訳では「管理者が目標をもっていると働きやすいと感じた」「管理者は責任が大きく幅広い視点が必要だと思った」「管理職やリーダーの役割が理解できた」と述べ、臨床実践能力の修得につながっていることが伺える。

チーム医療を推進していくためには、【他職種との連携】が欠かせない。学生は、『他職種との連携を知る機会となった』や『他部門との連携が理解できた』などと理解できていると考える。その具体的な内容として、「他病棟に行って生（実際）の連携を見ることができた」や「外来などとの病院全体の役割が見えた」と述べており、実践の場での見聞を通して学内での学びを臨地実習で統合して理解でき、臨床実践能力の修得に繋がっていると考ええる。その【チーム医療】では『チームとしての視点が理解できた』とし、「チーム医療が患者家族を安心・安楽に導くことが分かった」や「今までは患者との関係だったがチームとしての視点がもてた」と述べ、これまでの実習で1人の患者を受け持ちケアを実践していく中でチームとしての看護活動であることを実感できていると考える。

学生にとって、これまでの臨地実習は、1人の患者を中心にその患者の立場に立った見方を経験してきたと言える。看護部長として広い視野と多様な考えや判断を求められる立場から物事を捉える目が必要となる。【多角的な視点】はそうした『違う視点での見方ができた』という視点を持って物事に対処していくことを学ぶことができていると考える。「今までは患者との関係だったが、組織として働くという視点がもてた」「看護以外の視点から考えられた」「多角なものを見方を学べた」などと述べていた。学生はこれまでの実習で、1人の患者を受け持ったその患者のケアに責任を持つことが組織全体の中でどのように位置づけられていたのかを理解できたと考える。

学生の多くが【教育と臨地との連携不足】について指摘している。そのために理解や学びが不十分であったことは否めない。看護管理のマネジメントへの興味や関心を削いだとも言える。柏葉らが「指導者に付いてのシャドーイングが主となる実習では、ロールモデルである指導者の行動を共同注視することで学生に指導者の意図が伝わり先読みできるようになることで、学生の実践知を

育てることになる」と述べている。また、佐居らも「学生は、看護師と行動をともにするシャドーイングをとおして、自らのロールモデルを獲得していく」と言っている。

管理実習が看護部長のシャドーイングを通して看護実践を学んでいくなら看護部長に十分な意図やねらいを説明しなければ伝わらない。学生の学びが確かな手ごたえとするためには、教育側の学生に学ばせたい意図やねらいを詳細に説明し、将来臨床で広い視野をもって臨床実践できる能力を修得させたいことを熱く語る必要があったと考える。看護管理実習がシャドーイングを通して看護実践を学ぶ実習ならなおさらである。学生は『教育と臨地との連携不足』を指摘し、そのために『実習内容の格差』や『実習への取り組み』に影響を及ぼしたことを示唆していると考ええる。学生の鋭い感性で「学校と病院の調整が全くできていない」「看護部長の役割などをもっと知りたかった」「管理についてつかみづらい点があった」と述べている。この学生の思いを謙虚に受け止め、次に活かすことが課題である。

【管理者の倫理観】について、『看護倫理は看護の基盤』と学んでいる。学生は教育と臨地側との連携不足を指摘しながらも、「看護倫理にのっとって実習を受け入れていることを知った」「管理者の倫理観は必要不可欠なもの」「患者やスタッフとの関係調整は倫理観に基づいて行っていることを知った」と実習のねらいを十分に理解して学んでいると考える。さらに、【経験する楽しさ】では、『楽しく実習ができた』『貴重な経験だった』や「すごく楽しく興味深かった」、「今までに経験できないようなことができた」と述べていることから、看護管理の醍醐味を体験できたのではないかと考える。

以上のことから、学生が何をどのように学び、臨床実践能力の修得をしたかをみると、管理者をロールモデルとしたシャドーイングによる学びができたと考える。看護管理者がどのような役割業務を担っているかを理解し、雲の上の存在が身近なチームの一員であることを実感できたと考える。チーム医療を推進していくには、他職種の人たちとどのような連携が必要なのか、それぞれの関係を繋ぐ役割は看護管理者の重要な役割であり、それを実践するためには看護管理者の倫理観が基盤になっていることを多角的な視野を持つことで理解できたと考える。何より、経験する楽しさを実感できたことは、ロールモデルである管理者や指導者のシャドーイングの効果に他ならないと考える。

一方、教育と臨床との連携不足に対する鋭い感性をもって観察をしている。教育側の者として謙虚に受け止め、検討を加えて問題の解決に臨みたい。

本調査の分析を通して、臨床実践能力の修得に向けた「統合実習B」の教育効果や今後の教育上の課題が示唆さ

れた（図9）。

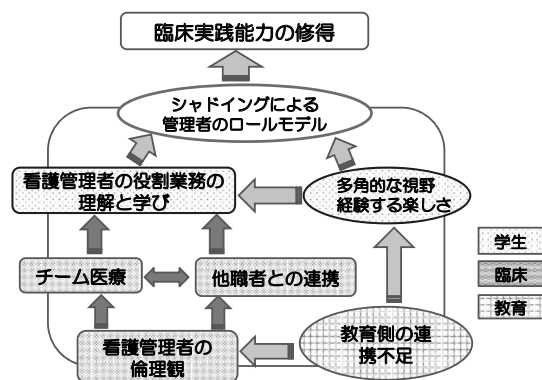


図9 感想と学びの構造図

謝辞

本研究を行うにあたりご協力して下さった本学短期大学看護学科の皆様、ならびに統計処理にあたってご指導いただいた矢嶋裕樹先生に心より感謝申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，2007.
- 2) 林慶子他：統合分野・看護の統合と実践，看護教育，医学書院，959-964，2008.
- 3) 小山真理子：新カリキュラムがめざすこと「看護基礎教育の充実に関する検討会」を終えて，看護教育，48 (7)，560，2007.
- 4) 小山真理子：【教育と臨床をつなぐ統合実習「看護の統合と実践」の実習指導案と展開】総論 今改めて看護基礎教育カリキュラムの統合実習を考える（解説/特集），看護展望37 (2)，93-102，2011.
- 5) 蛭名總子：基礎教育と臨床繋ぐために，看護展望，37 (2)，44-53，2011.
- 6) 林慶子：統合分野：安全管理教育のポイント，看護教育，50 (4)，306，2009.
- 7) 石川雅彦：安全管理教育の基礎として何を教えるか，看護教育，49 (10)，952-953，2007.
- 8) 坂本すが：臨地実習をどう見直し，組み立てるかーカリキュラム改正の意図を踏まえてー，看護展望，32 (7)，671，2007.
- 9) 小野晴子他：複数の患者受け持ち導入による統合実習Aの到達度ー臨床実践能力の修得に向けてー，新見公立大学紀要，32，7-14，2011.
- 10) 山田 円，山下久美子：「チームの一員」を体験する統合実習指導案，看護展望，37 (2)，108-116，2011.
- 11) 柏葉英美，清水里佳子，玉川美和：学生から看護師への架け橋となる実習を目指して，看護展望，37 (2)，30-43，2011.
- 12) 佐居由美，大久保暢子，石本亜希子他：看護学導入プログラムにおけるシャドウイングアドバンスの試み，聖路加看護大学紀要，34，70-78，2008.
- 13) 後藤桂子，松谷美和子：新人看護師の看護実践を段階的に進める「総合実習」，看護展望，32 (7)，687-694，2007.
- 14) 小山真理子：今，改めて看護基礎教育カリキュラムの統合実習を考える，看護展望，37 (2)，6-13，2011.
- 15) 川村治子：「看護の統合と実践」での安全管理教育を考えるー各科目での安全管理教育を踏まえてー，看護教育，48 (9)，786-791，2009.
- 16) 嶋森好子，任和子：「安全管理とリスクマネジメント」編集，NOUVELLE HIROKAWA，239，2008.
- 17) 渡邊淳子，石川倫子，倉田貴子：科目レベルのカリキュラムの実際，看護教育，50 (6)，494-498，2009.
- 18) 川村治子：求められる安全管理教育とは，看護教育，48 (9)，782-785，2009.
- 19) 三妙律子：統合分野 災害看護の視点と内容，看護教育，50 (4)，314-317，2009.
- 20) 大島弓子：統合分野 看護の新たな考え方の視点をどう教授するか，看護教育，50 (4)，323-498，2009.

The level of achievement of consolidated practice experience B that focuses on the acquisition of skills in clinical practice

Haruko ONO, Yasuko KAWASAKI, Junko KAKEYA
Akiko ISOMOTO, Kazuko SHIOMI, Hiroko TSUGENO

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This study aimed to clarify the levels of achievement of consolidated practice experience B that is based on nursing management. The following were identified as the results of analysis. Regarding the level of achievement, we compared the mean scores of 5 items that were obtained using a 5-point Likert scale. The level of understanding was measured by comparing each item using an interval scale.

1. The results showed a high “level of training goal achievement” (96.3%) and “future applicability” (93%).
2. Concerning the level of understanding according to training goal items, “bed management in a hospital ward” showed the highest score (3.9 points), and “educational cooperation and ethical views” showed the lowest score (3.0 points).
3. Regarding the level of understanding according to training goal contents, the highest level of understanding was observed in “medical team”, “safety management”, and “securing and cultivation of human resources” (98.3%), and the lowest level in “functional evaluation of nursing practice” (51.2%). A low level of understanding was also observed in “coordination and cooperation between educational and clinical settings” (66.7%).
4. There was a strong correlation between “the level of training goal achievement” and “the level of understanding of practice contents” ($r=0.70-0.50$, $P<0.000$).
5. As free text comments, the students mentioned that they learned “roles and functions of a manager”, and pointed out insufficient cooperation between educational and clinical settings.

The above findings showed that the students rated themselves as having realized high-level achievements in nursing management practice, “consolidated practice experience B”, which was conducted in the initial year after the curriculum reform, and the practice contributed to the acquisition of skills in clinical practice and cultivation of fundamental nursing management skills. The identified educational problems must also be solved after examining them.

Key words: Level of achievement/understanding, consolidated practice experience B, shadowing, skills in clinical practice